

WebSAM DeploymentManager Ver6.2 ローカルリストア機能 運用手順書

—第 1 版—

改版履歴

版数	改版日付	改版内容
1	2013/07/18	新規作成

目次

1	概要	5
2	準備するもの	5
2.1	バックアップ時	5
2.2	ローカルリストア用ブータブル CD 及びリストア媒体作成時	5
2.3	ローカルリストア実行時	5
3	バックアップ	7
4	ローカルリストア用ブータブル CD 及びリストア媒体作成	7
4.1	分割ファイルを作成する	8
4.1.1	実行方法	8
4.1.2	ファイル分割構成	9
4.2	バックアップイメージファイルと分割ファイルの比較を行う	10
4.3	リストア媒体を作成する	10
4.4	ローカルリストア用ブータブル CD を作成する	10
4.4.1	<i>cdboot.iso</i> イメージの作成	11
5	ローカルリストア	14
5.1	管理対象マシンの起動	14
5.2	リストア対象となるデバイスの選択	15
5.3	リストア媒体の挿入	16
5.4	ローカルリストア実行	16
6	その他	17
6.1	媒体枚数の目安	17
6.2	ファイル分割ツールのオプションパラメータ	18
6.3	設定ファイル	18
7	注意事項	19

商標について

- ・ WebSAMは日本電気株式会社の登録商標です。

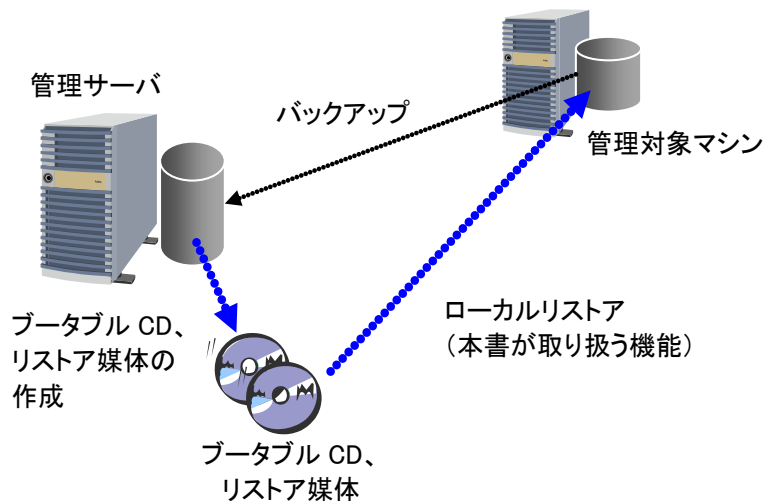
はじめに

本書は、WebSAM DeploymentManager(以降、DPM)で ローカルリストア機能 を使用するための手順書です。

本書は、以下の DPM 製品バージョンに対応しています。

- WebSAM DeploymentManager Ver6.2
- WebSAM DeploymentManager Ver6.2 for SSC

ローカルリストア機能とは、DPM でバックアップしたバックアップイメージファイルを CD/DVD 媒体に格納しておき、管理サーバを使用せずにローカル環境のみで CD/DVD 媒体よりリストアを行う機能です。



ローカルリストアでは DeploymentManager Ver.6.2 がサポートする全ての機種に対応しています。

- DeploymentManager Ver.6.2 製品版の対応機種
- 上記製品バージョンに適用可能な機種対応モジュールの対応機種

但し、管理サーバに格納されているドライバ情報を使用してローカルリストア用ブータブル CD を作成する必要があるため、ローカルリストアを利用する機種に対応する機種対応モジュールを事前に管理サーバに適用する必要があります。

1 概要

ローカルリストアの実行は、大きく分けて以下の3つの手順からなります。

1. バックアップ
2. ローカルリストア用ブータブル CD 及びリストア媒体作成
ローカルリストアに必要な媒体を作成します。
3. ローカルリストア
2で作成した媒体を利用して、管理サーバを使用せずにリストアを行います。

2 準備するもの

2.1 バックアップ時

バックアップ時に準備するものは次のとおりです。

- 管理サーバ
- バックアップ用ブータブル CD (オプション)
PXE ブートによるバックアップを行う場合は必要ありません。

ヒント

コンソールレス機器で CD ブートによるバックアップを行う場合は、設定ファイルを格納したブータブル CD を用意してください。

2.2 ローカルリストア用ブータブル CD 及びリストア媒体作成時

ローカルリストア用ブータブル CD 及びリストア媒体作成時に準備するものは次のとおりです。

- 管理サーバ (本書に対応するバージョン) の動作するマシン
このマシンでファイル分割ツールを使用して、バックアップイメージファイルのファイル分割及びローカルリストアのためのシナリオ情報の生成を行います。
生成された各ファイルはローカルリストア用ブータブル CD、リストア媒体を作成するために使用します。
- ローカルリストア用ブータブル CD を作成するための書込み可能な CD 媒体 1 枚
- ローカルリストア用リストア媒体を作成するための書込み可能な CD/DVD 媒体
分割ファイルを保存するための媒体枚数の目安は「6.1 媒体枚数の目安」を参照してください。

2.3 ローカルリストア実行時

ローカルリストア実行時に準備するものは次のとおりです。

- ローカルリストア用ブータブル CD
- ローカルリストア用リストア媒体
- シリアルコンソール接続が行える機材 (オプション)
コンソールレス機器へローカルリストアを実行する際に必要です。
シリアルコンソールに接続する際の設定は以下のとおりです。
 - 通信設定

- ◇ ポート：COM0 固定
- ◇ 通信速度：9600(bps)
- ◇ データ長：8(bits)
- ◇ パリティ：なし
- ◇ ストップビット：1(bit)
- ◇ フロー制御：なし

➤ 端末設定

- ◇ 端末 ID：VT100
- ◇ 改行制御：CRのみ
- ◇ 漢字コード：設定不要

※管理対象マシン上で出力するメッセージは、半角英数字のみとなるため設定は必要ありません。

3 バックアップ

ローカルリストアを行うバックアップイメージファイルを作成する手順として特別な設定や手順はありません。DPM を利用した通常のバックアップを行ってください。

注意

バックアップシナリオで、「バックアップ/リストア」タブ-「バックアップ設定」グループボックスの「ベリファイデータを作成する」にチェックを入れてバックアップされたバックアップイメージファイルは使用できません。

ヒント

- コンソールレスの機種では次の手順により、手動操作なしでバックアップを行うことができます。
 - PXE ブートでバックアップする場合
管理サーバからのシナリオ実行により、バックアップを行ってください。
 - ブータブル CD でバックアップする場合
 - ◇ 設定ファイルを格納したブータブル CD を作成してください。
 - DPMIP.conf の ClientIPAddress、ServerIPAddress を設定してください。
 - DPMIP.conf の AutoShutdown を “1” に設定してください。
(AutoShutdown については「6.3 設定ファイル」を参照してください)
 - ◇ 管理サーバでシナリオを実行状態にしてください。
 - ◇ ブータブル CD を挿入して管理対象マシンを起動してください。

※バックアップ用ブータブル CD でバックアップを行う際に、管理サーバがシナリオ実行状態でない場合には、管理対象マシン側でバックアップを開始するかの確認 ("Would you like to start Backup?(y/n)") を表示し停止します。
管理対象マシンがコンソールレスの機種の場合、上記状態から遷移することができないため、一旦、管理対象マシンの電源を OFF にし、管理サーバがシナリオ実行状態になったことを確認後、管理対象マシンを起動する必要があります。
※詳細は「オペレーションガイド 付録 A DHCP サーバを使用しない場合の運用 をする」を参照してください。
- コンソールレスの機種ではバックアップ完了後、次の操作を行う必要があります。
 - PXE ブートでバックアップする場合
 - ◇ 管理サーバでバックアップの完了を確認してください。
 - ブータブル CD でバックアップする場合
 - ◇ 管理対象マシンが自動シャットダウンされたことを確認してください。
 - ◇ 管理対象マシンの次回起動直後にブータブル CD を取り出してください。

4 ローカルリストア用ブータブル CD 及びリストア媒体作成

ローカルリストア用ブータブル CD 及び リストア媒体 を作成する手順は次のとおりです。以降に各手順の詳細を説明します。

(1) 分割ファイルを作成する

ファイル分割ツールを利用して、分割ファイルを作成してください。

(2) バックアップイメージファイルと分割ファイルの比較を行う

バックアップイメージファイルと分割ファイルの比較を行い、バックアップイメージファイルが正常に分割できたかを確認してください。

(3) リストア媒体を作成する

一般のライティングソフトを利用して、分割ファイルを媒体に書き込みリストア媒体を作成してください。

(4) ローカルリストア用ブータブル CD を作成する

ローカルリストア用ブータブル CD を作成してください。

4.1 分割ファイルを作成する

ファイル分割ツールを利用してバックアップイメージファイルを分割します。

4.1.1 実行方法

ファイル分割ツールは管理サーバ上の以下のパスに格納されています。

```
<DPM インストールフォルダ> ※  
|  
└─ splitlbr.exe
```

※<DPM インストールフォルダ>はインストール環境により異なります。適宜読み替えてください。

- ・ Windows OS が x86 の場合 : C:\Program Files\NEC\DeploymentManager
- ・ Windows OS が x64 の場合 : C:\Program Files (x86)\NEC\DeploymentManager

コマンドプロンプトを起動して実行してください。

```
> splitlbr.exe -size=[nMB | nGB] BackupImageFile.lbr  
-size=[nMB | nGB] : 分割サイズを指定します。
```


n にはサイズ（数値）を指定します。
※本オプション省略時：4.2GB(=4,509,715,660 Bytes)で分割します。
BackupImageFile.lbr： バックアップイメージファイルのパスを指定します。

図 4-1 ファイル分割ツール（バックアップイメージファイル分割）

上記を実行することで、バックアップイメージファイルのあるフォルダ配下に、分割した複数のイメージファイルが作成されます。

尚、指定する分割サイズ（-size オプション）と媒体枚数の目安については「6.1 媒体枚数の目安」を参照してください。

注意

- 分割するバックアップイメージファイルのサイズよりも大きな空き領域が必要です。
- ファイル分割ツールは、管理サーバの情報を参照するため管理サーバ上で実行してください。管理サーバの情報が取得できない場合は、ファイルの分割は行われません。
- 指定するバックアップファイルの拡張子が、".lbr" 以外の場合はファイルの分割は行われません。
- ファイルの分割で作成したファイルは、ファイル名の変更、ファイルの削除や属性の変更などを行わないでください。
- ファイル分割開始時に、すでに分割ファイルが存在する場合は、既存の分割ファイルを削除しても良いか確認メッセージが表示されます。削除を選択した場合は分割ファイルを削除し、ファイル分割を行います。

4.1.2 ファイル分割構成

分割したファイルの構成を説明します。

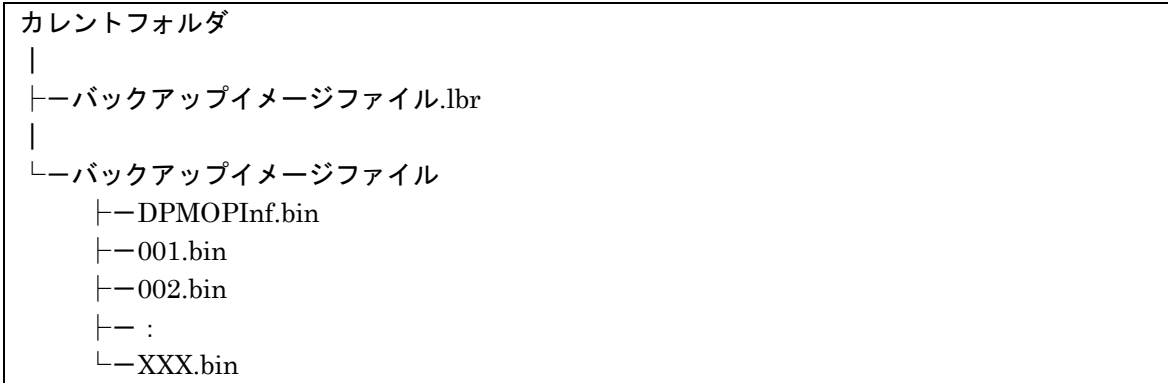


図 4-2 ファイル分割構成

- バックアップイメージファイルのあるフォルダ配下に分割ファイルを格納するフォルダが作成されます。フォルダは、バックアップイメージファイルから拡張子を取り除いた名前になります。
- 分割ファイルのファイル名は XXX.bin(XXX=001、002、...) で作成されます。分割ファイルは識別情報、及び分割したバックアップイメージで構成されます。
- ファイル分割ツールによって作成される DPMOPInf.bin はローカルリストア用ブータブル CD 作成手順で必要となるファイルです。分割ファイルをリストアするためのシナリオ情報を格納しています。

4.2 バックアップイメージファイルと分割ファイルの比較を行う

バックアップイメージファイルと分割ファイルを比較し、分割が正常に行えたかを確認します。ファイルの比較では、識別情報から生成したハッシュ値の比較と、バックアップイメージのバイナリ比較を行います。ベリファイ有効オプションを設定してファイル分割ツールを実行することで、ベリファイを行います。本機能の起動方法を以下に説明します。

```
> splitlbr.exe -mode=compare BackupImageFile.lbr
   -mode=compare : ベリファイを有効にする
   BackupImageFile.lbr : バックアップイメージファイルのパスを指定します。
```

図 4-3 ファイル分割ツール（ベリファイ）

比較結果は、メッセージボックスで表示されます。

ファイルに相違がある場合は、再度ファイルの分割を実行してください。

- 正常時 : "File is consistent" (ファイルが一致している場合)
- 異常時 : "There are differences between the files" (ファイルに相違がある場合)

比較結果が異常となった場合の理由(エラーコード)は次の表を参照してください。

表 4-1 比較結果の異常理由

エラーコード	理由
E01001	バックアップファイルが存在しない
E01002	分割ファイルが存在しない(あるいは、不足している)
E02001	識別情報が一致しない
E02002	ファイルサイズが一致しない
E03001	イメージに差分がある
E99999	その他の異常

4.3 リストア媒体を作成する

- 一般のライティングソフトを利用して媒体を作成してください。
- 書き込み方法は以下のとおりです。
 - 分割ファイルは 1 ファイルにつき 1 媒体に書き込んでください。
 - イメージの展開による媒体の作成形式ではなく、ファイル形式で書き込み媒体を作成してください。

4.4 ローカルリストア用ブータブル CD を作成する

通常のバックアップ/リストア用ブータブル CD を作成する場合と異なる操作について説明します。

尚、ローカルリストアでは、通常のブータブル CD とは構成が異なります。
このため、通常のブータブル CD を作成する環境とは異なる任意のフォルダを使用してください。

4.4.1 cdboot.iso イメージの作成

cdboot.iso イメージの作成方法を以下に説明します。「オペレーションガイド 付録 A DHCP サーバを使用しない場合の運用をする」に記載の手順との差分を記載します。

作成する cdboot.iso の内容は次のとおりです。

(例：使用する Deploy-OS のブータブル CD 格納フォルダが”ia32_110331_26”の場合)

```
cdboot.iso イメージ
|
|--[ISOLINUX]
|   |--initrd.img
|   |--isolinux.bin
|   |--isolinux.cfg
|   |--vmlinuz
|--[localrestore]
|   |--[ia32_110331_26]
|       |--chkdrv_ia32_110331_26.lst
|       :
|       |
|       |--DPMOPInf.bin
|--DPMIP.conf
|--rootfs-cdboot
```

なお、次の手順中、番号直後の【】内は以下のことを表します。

- 【変更なし】 オペレーションガイドに記載の「設定ファイルを格納したブータブル CD を作成する」手順と変更がない
 - 【変更あり】 手順に変更はないが、編集内容が異なる
 - 【新規追加】 ローカルリストア用の追加手順
1. 【変更なし】 ハードディスク上の適当な場所に作業用フォルダを作成してください。
 2. 【変更なし】 作業用フォルダ直下に以下のファイルをコピーしてください。

mkisofs.exe、mkisofs.bat、cygwin1.dll を以下のフォルダからコピーしてください。

SSC 向け製品の場合：

<インストール媒体>%DPM%TOOLS%CDBoot%Tools% フォルダ配下

DPM 単体製品の場合：

<インストール媒体>%TOOLS%CDBoot%Tools% フォルダ配下

機種対応モジュールを使用する場合：

SSC 向け製品の場合： <インストール媒体>%DPM%TOOLS%CDBoot%Tools% フォルダ配下

DPM 単体製品の場合： <インストール媒体>%TOOLS%CDBoot%Tools% フォルダ配下

3. 【変更なし】 作業用フォルダ直下に「temp_dir」フォルダを作成してください。
4. 【変更なし】 「temp_dir」フォルダ直下に以下のファイルをコピーしてください。

rootfs-cdboot を以下のフォルダからコピーしてください。

SSC 向け製品の場合： <インストール媒体>¥DPM¥TOOLS¥CDBoot¥CD-modules¥ フォルダ配下
DPM 単体製品の場合： <インストール媒体>¥TOOLS¥CDBoot¥CD-modules¥ フォルダ配下
機種対応モジュールを使用する場合： SSC 向け製品の場合： <インストール媒体>¥DPM¥TOOLS¥CDBoot¥CD-modules¥ フォルダ配下 DPM 単体製品の場合： <インストール媒体>¥TOOLS¥CDBoot¥CD-modules¥ フォルダ配下

5. 【変更あり】「temp_dir」フォルダ直下に以下のファイルをコピーしてください。

DPMIP.conf を以下のフォルダからコピーしてください。

SSC 向け製品の場合： <インストール媒体>¥DPM¥TOOLS¥CDBoot_LocalRestore¥CD-modules¥ フォルダ配下
DPM 単体製品の場合： <インストール媒体>¥TOOLS¥CDBoot_LocalRestore¥CD-modules¥ フォルダ配下
機種対応モジュールを使用する場合： SSC 向け製品の場合： <インストール媒体>¥DPM¥TOOLS¥CDBoot_LocalRestore ¥CD-modules¥ フォルダ配下 DPM 単体製品の場合： <インストール媒体>¥TOOLS¥CDBoot_LocalRestore ¥CD-modules¥ フォルダ配下

6. 【変更あり】コピーした DPMIP.conf の読み取り専用属性を解除し内容を編集してください。
- ◇ 設定値については、「6.3 設定ファイル」を参照してください。
 - ◇ 従来の以下の設定は指定する必要はありません。追加した場合は無視されます。
 (ClientIPAddress、ServerIPAddress、Netmask、Gateway、ClientEth)

以下に DPMIP.conf の記載例を示します。

```
LocalRestore:1
AutoShutdown:0
```

7. 【変更なし】「temp_dir」フォルダ直下に以下のフォルダをコピーしてください。

SSC 向け製品の場合： <インストール媒体>¥DPM¥TOOLS¥CDBoot¥ブータブル CD 格納フォルダ¥ISOLINUX
DPM 単体製品の場合： <インストール媒体>¥TOOLS¥CDBoot¥ブータブル CD 格納フォルダ¥ISOLINUX
機種対応モジュールを使用する場合： <機種対応リリースモジュール>¥bin¥TOOLS¥CDBoot¥ブータブル CD 格納フォルダ¥ISOLINUX

ヒント

【新規追加】 コンソールレス機器へローカルリストアを実行する際にシリアルコンソール接続を行う場合に限り、上記(7.)を行った後に「temp_dir」フォルダ直下に以下のフォルダを上書きコピーしてください。

SSC 向け製品の場合:

<インストール媒体>%DPM%TOOLS%CDBoot_LocalRestore
%ブータブル CD 格納フォルダ%ISOLINUX

DPM 単体製品の場合:

<インストール媒体>%TOOLS%CDBoot_LocalRestore
%ブータブル CD 格納フォルダ%ISOLINUX

機種対応モジュールを使用する場合:

<機種対応リリースモジュール>%bin%TOOLS%CDBoot_LocalRestore
%ブータブル CD 格納フォルダ%ISOLINUX

8. 【新規追加】 作業用フォルダの「temp_dir」フォルダ直下に「localrestore」フォルダを作成してください。
9. 【新規追加】 ファイル分割ツールで作成された DPMOPIInf.bin を「localrestore」フォルダにコピーしてください。
10. 【新規追加】 管理サーバから C:%Deploy%FD-Linux%drivers%xxx_XXXXXX_xx フォルダを配下のファイルも含めて「localrestore」にコピーしてください。
※“C:%Deploy”は<イメージ格納用フォルダ>を示します。設定に応じて読み替えてください。
※“xxx_XXXXXX_xx”は使用する Deploy-OS のブータブル CD 格納フォルダと同じ名前である必要があります。使用している装置に応じたブータブル CD 格納フォルダ名に合わせて読み替えてください。
11. 【変更なし】 コマンドプロンプトを起動し、カレントフォルダを作業用フォルダに移動してください。
12. 【変更なし】 「mkisofs.bat」を実行してください。
13. 【変更なし】 作業用フォルダ直下に「cdboot.iso」イメージが作成されます。
14. 【変更なし】 作成した cdboot.iso をライティングソフトで指定し、ブータブル CD を作成してください。CD の作成方法については、使用しているライティングソフトのマニュアルを参照してください。

5 ローカルリストア

ローカルリストアを実行する手順は次のとおりです。以降に各手順の詳細を説明します。

(1) 管理対象マシンの起動

管理対象マシンの CD/DVD ドライブにローカルリストア用ブータブル CD を挿入し、管理対象マシンを起動してください。

(2) リストア対象となるデバイスの選択

画面に表示されるリストア対象として有効なデバイスの一覧からリストアするデバイスを選択してください。

(3) リストア媒体の挿入

ローカルリストア用ブータブル CD と 1 枚目のリストア媒体の入れ替えを促すメッセージが表示された後、ローカルリストア用ブータブル CD を取り出し、1 枚目のリストア媒体に入れ替えてください。

(4) ローカルリストア実行

リストア媒体が複数枚必要な場合、媒体の交換を促すメッセージにしたがい、媒体を交換してください。リストア媒体枚数分のリストア実行後、リストア完了のメッセージが表示されますので管理対象マシンの再起動を行ってください。

5.1 管理対象マシンの起動

- ローカルリストア用ブータブル CD を挿入し、管理対象マシンを起動してください。

ヒント

コンソールレス機器へローカルリストアを行う場合は、シリアルコンソールを接続してから管理対象マシンを起動してください。

5.2 リストア対象となるデバイスの選択

管理対象マシン起動後、図 5-1 のようなメッセージが表示されます。Enter キーを押下してください。

```
Display view of Device with PAGER.  
Select restoring device number and press 'q' to finish PAGER.  
  
Press 'Enter' key.
```

図 5-1 ページャ使用メッセージ

Enter キー押下後、以下のようにリストア先のデバイス情報が表示されます。デバイス情報が 1 画面に収まらない場合、続けて Enter キーを押下すると次の画面が表示されます。表示されたデバイスの一覧から、リストア対象とするディスクを決定してください。終了するには 'q' キーを押下してください。

```
-----  
Disk Number      : 1  
Device File Name : /dev/sda  
Disk Type        : Basic  
Disk Size        : 80000040960 Bytes  
Sector Size      : 512 Bytes  
  
No.      Start Sector/  Partition Size/      Type/  
1         63           208782 <primary> Linux-ext  
2        208845       20964825 <primary> Linux-ext  
3       21173670     2104515 <primary> Linux-swap  
-----  
Disk Number      : 2  
Device File Name : /dev/sdb  
Disk Type        : Basic  
Disk Size        : 80000040960 Bytes  
Sector Size      : 512 Bytes  
  
No.      Start Sector/  Partition Size/      Type/  
1         63           208782 <primary> Linux-ext  
2        208845       156039345 <primary> Linux-LVM
```

図 5-2 有効デバイス一覧

表示されたデバイス一覧からリストア先のディスクを決定したら、“Disk Number” の右に記載の番号を入力した後、Enter キーを押下してください。

(例：上記の “Disk Number : 1” のディスクをバックアップする場合は、その右に記載の 1 を指定します)

再度デバイスの一覧を表示したい場合は 'L' キーを入力し、Enter キーを押下してください。

```
Select the Number of the disk on the tip of Restoring.
When you want to display view of Device again , press 'L' key.
>1
```

図 5-3 デバイス選択メッセージ

選択されたディスクで間違いないか確認するため、選択されたデバイスの詳細情報を再度表示します。問題ない場合は 'y' キーを入力し、Enter キーを押下してリストア先デバイスを決定してください。再選択する場合は 'n' キーを入力し、Enter キーを押下してください。選択画面に戻ります。

```
Disk Number      : 1
Device File Name : /dev/sda
Disk Type        : Basic
Disk Size        : 80000040960 Bytes
Sector Size     : 512 Bytes

No.      Start Sector/  Partition Size/      Type/
1         63           208782 <primary> Linux-ext
2        208845       20964825 <primary> Linux-ext
3       21173670     2104515 <primary> Linux-swap
Is it OK in this device. [Y/N]
```

図 5-4 デバイス選択メッセージ

5.3 リストア媒体の挿入

選択されたディスクのマウントに成功した場合、以下のように表示されます。ローカルリストア用ブータブル CD を取り出してリストア媒体を CD/DVD ドライブに挿入後、Enter キーを押下してください。

なお、このときの検出先となる CD/DVD ドライブはブータブル CD を入れていたドライブと同じドライブになります。(複数台ドライブがある環境においても CD の交換は必要です)

```
Insert BackupImageDisk of the 1st to the CD drive.
Press 'Enter' key.
```

図 5-5 リストア媒体交換メッセージ (1 枚目)

5.4 ローカルリストア実行

CD/DVD の検出に成功すると、ローカルリストア処理が開始されます。開始後、コンソールに対し

てリストア処理の進捗が10%単位で表示されます。

複数のリストア媒体が必要な場合、1枚目のディスクのローカルリストア処理完了後にディスクの交換を促す以下のメッセージが表示されます。

```
Change the disk into the 2/3 disk and Press 'Enter' key.
```

図 5-6 リストア媒体交換メッセージ（例：2枚目/全3枚 交換時）

リストア媒体の枚数分、上記のメッセージが表示されるため、その都度媒体の交換を行ってください。尚、このときバックアップイメージの不一致や、リストアの順番誤り等、適切なリストア媒体に交換されなかった場合、要因として一意のエラーメッセージが表示されます。適切なリストア媒体に交換してください。以下は例として、リストア媒体を2枚目に交換した際、1枚目とバックアップイメージが一致しなかった場合のエラーメッセージです。

```
disk Error  
This Image is not corresponding.  
Change the disk into the 2/3 disk and Press 'Enter' key.
```

図 5-7 リストア媒体正当性確認エラーメッセージ（イメージ不一致）

ローカルリストア処理完了後、以下のメッセージが表示されます。画面にしたがい、管理対象マシンの再起動を行ってください。

```
Remove the disk from the CD/FD drive.  
Press 'p' key to poweroff, 'r' key to reboot:
```

図 5-8 リストア処理終了メッセージ

6 その他

6.1 媒体枚数の目安

ファイル分割ツールで指定する分割サイズ（-size オプション）は、媒体1枚あたりの識別情報と分割したバックアップイメージのサイズを合計した値となります。

このため、媒体1枚あたりに保存できるバックアップイメージのサイズは、
[-size で指定したサイズ] - [識別情報のサイズ(1024Bytes)] となります。

例)

DVD に保存する場合(媒体1枚あたりのサイズは、4.2GB)は、
 $4,509,715,660 - 1,024 = 4,509,714,636(\text{bytes})$
となります。

このため、バックアップイメージファイルのサイズが50GBであった場合は、
 $53,687,091,200 / 4,509,714,636 = 11.905$
となり、媒体は12枚必要となります。

6.2 ファイル分割ツールのオプションパラメータ

ファイル分割ツールで指定可能なオプションを説明します。

表 6-1 ファイル分割ツール 起動オプション

書式	省略	説明
<i>BackupImageFile.lbr</i>	不可	分割するバックアップイメージファイルを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> ● 相対パスを指定した場合は、本ツールを実行した際のカレントフォルダを基準とします。 ● 本パラメータを指定しない場合は、"-h" 指定時と同じ動作となります。
-h	可	本ツールのオプションパラメータ説明を表示して、ツールは終了します。 <ul style="list-style-type: none"> ● 本オプションを指定した場合は、以降のオプション指定は無効となります。 ● 標準出力に、オプションパラメータの説明が表示されます。
-mode=compare	可	ファイルの比較を行い、結果を表示します。 <ul style="list-style-type: none"> ● 本オプションを省略した場合は、イメージファイルの分割処理を行います。 ● 本オプションを指定した場合は、以降のオプション指定は無効となります。 ● 大文字小文字の区別はしません。
-size=[<i>n</i> MB <i>n</i> GB]	可	分割サイズを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> ● 本オプションを省略した場合は、4.2GB(=4,509,715,660 Bytes)で分割します。 ● "-size="に続けてサイズを指定します(空白は空けないでください)。 ● 大文字小文字の区別はしません。 ● "<i>n</i>MB"/"<i>n</i>GB" で <i>n</i> には整数のみ指定可能です。(4.7GB のような小数での指定はできません)。 ● "<i>n</i>MB"/"<i>n</i>GB" で指定可能なサイズの範囲は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 最小値：600MB ➢ 最大値：1024GB(1TB) ● "<i>n</i>MB"/"<i>n</i>GB" で指定可能なサイズ以外を指定した場合は、"-h" 指定時と同じ動作を行います。

※オプションは順不同で指定可能です。

6.3 設定ファイル

設定ファイル(DPMIP.conf)はローカルリストア専用の設定が必要です。設定内容を説明します。

- ローカルリストア専用の設定
ローカルリストア用に以下の情報を設定することができます。

表 6-2 ローカルリストア設定情報

情報名	値の形式	形式	指定がないとき
リストア方法	0: 通常のバックアップ リストア 1: ローカルリストア	LocalRestore:1	LocalRestore:0 が指定されたものとして動作します
自動シャット ダウン設定	0: 通常の終了通知 1: バックアップ/リストア完了後自動シャット ダウン実行	AutoShutdown:1	AutoShutdown:0 が指定されたものとして動作します

- オペレーションガイドに記載の設定内容
オペレーションガイドに記載の以下の設定内容に変更はありません。
尚、「LocalRestore:1」の設定がある場合には、本情報は使用されません。
 - ClientIPAddress
 - ServerIPAddress
 - Netmask
 - Gateway
 - ClientEth

7 注意事項

- ローカルリストアでは、パーティション単位でのリストアには対応していません。
- バックアップイメージファイルは、DPM4.0以降の形式のみに対応し、DPM4.0より前の形式には対応していません。
- バックアップイメージファイルのファイルサイズが1枚の媒体に書き込むことができる場合でも、必ず手順どおりに分割ファイルを作成してください。元のバックアップイメージファイルでは、ローカルリストアを行うことはできません。
- コンソールレス機器にシリアルコンソール接続を行いローカルリストアする場合は COM0 を使用してください。

以上